

## 4 最近のブドウ品種の動向

全国のブドウ栽培品種は、「巨峰」、「デラウェア」が2本柱で、「マスカット・ベリーA」、「キャンベルアーリー」、「ピオーネ」等がそれに続いている。過去10年の栽培面積は、既存品種の減少が目立ち、増加を続けてきた「巨峰」も横這いに転じた。それに対して、「ピオーネ」やその他の新しい品種の栽培面積は増加している。ただし、「ピオーネ」以外には、現在、主要品種となりうるものはなく、多くは補完的な品種として位置づけられている。

県内においても、主要な栽培品種である「マスカット・ベリーA」の減少、「ピオーネ」等の大粒系品種の微増傾向に変わりはない。そんな中で、大産地に比べて市場出荷の比重が低く、販売形態が観光・直売中心の本県では、消費者の多様なニーズに即応するため、様々な品種の導入、試作が試みられている。今回は当センターで検討している品種の中で、主要品種を補完すると思われる品種の特性と導入上の留意点について紹介する。

### 1 黒色品種

10年前から有望視されていた「紫玉」、「藤稔」は「ピオーネ」に比べて着色しやすく、栽培が容易なため、導入事例が多い。「紫玉」はやや小粒であるが、8月上旬に収穫できる熟期の早さが特徴で、酸抜け、日持ち性にやや問題がある。「藤稔」は「ピオーネ」に比べて収穫時期がやや早い8月中下旬で、20g前後の巨大粒が最大の特徴である。裂果の発生が問題視されたが、保水力のある土壌では大きな問題とはなっていない。これら2品種は「ピオーネ」と収穫時期が異なるため、これらの組み合わせで労力分散につながる。その他、多くの黒色品種が作出されているが、補完品種として位置づけるには特徴がなく、前述の2品種に及ばない。

### 2 赤色品種

「竜宝」、「紅伊豆」、「紅瑞宝」の既存品種は、食味がきわめて良好であるが、これらには着色性、脱粒性、裂果の発生などの栽培上の問題点がある。「安芸クイーン」（表紙写真）は高糖度で食味がよく、広島県、岡山県等で栽培が増加しているが、着色性、はく皮性（果皮と果肉の分離）が悪い。「シナノスマイル」は比較的栽培しやすいが、やや小粒で、他の赤色品種に食味が及ばない。これら赤色品種は、

栽培上の問題点解決に向け、試験研究がなされているが、現時点では決め手となる品種をしばり込めていない。しかし、赤色品種は、黒色品種にはない食味の良さを持っており、今後も生産安定技術の向上を図っていく必要がある。

### 3 白色品種

「白峰」は結実性、糖度不足などが問題となることがあるが、栽培が比較的容易である。「白峰」の実生である「多摩ゆたか」は、糖度不足を解消したものの、果粒がやや小さく、果点が目立ち外観が優れないため、「白峰」より劣る。「ハニービーナス」（下部写真）は、ジベレリン処理による無核化（種なし）栽培でも、有核果の混入が多く、はく皮性が悪いものの、結実がきわめてよく、安定栽培が可能である。白色品種は、赤色品種に比べて、栽培上の問題点は少ないが、同一果房内での熟度ムラがみられることがある。

### 4 今後の方針

これからの品種に求められるものは、おいしさが大前提で、食べやすさ（種なし、はく皮しやすい、皮のまま食べられる）、マスカット香のある新しい食味などがあげられる。現在、当センターではマスカット香のある系統も含めて、適応性検定試験を実施中である。

大消費地を控えた本県の立地条件、観光・直売が多い販売形態を考えると、栽培技術の検討とあわせて、新たな流通・販売方法を創出していくことが、重要であると思われる。

福井謙一郎（農業技セ・園芸部）

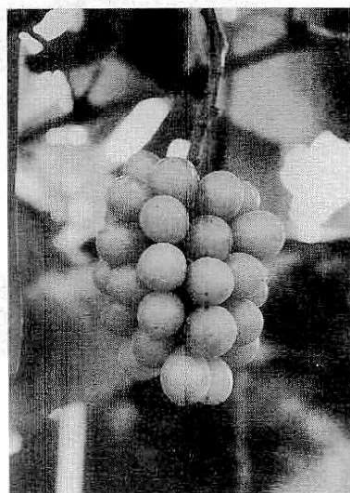


図 収穫前の「ハニービーナス」